

2021年9月25日

## 2021年度第1回 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人山口学園  
ECC 国際外語専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき  
2021年度第1回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2021年9月4日(土) 14:00-16:30

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1号館 7階 (一部オンラインにて実施)

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1) 関連業界等関係者

委員長 西出 由佳氏 株式会社 K 効イ 旅客・営業部 マネージャー

塩谷 典子氏 株式会社 TEI 大阪支店 支店長

(2) 地域関係者

中上 隆雄氏 済美地域社会福祉協議会 会長

(3) 高等学校関係者

貴治 康夫氏 立命館高等学校 教員

(4) 大学関係者

原 清治氏 佛教大学 副学長 教育学部教授

(5) 本学卒業生

杉井 繭氏 ECC 国際外語専門学校 海外インターナショナルコース卒業生

#### (6) 同席者

瀧山 淳一	ECC 国際外語専門学校 学校長
大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 副校長・教務課責任者
伊藤 功	ECC 国際外語専門学校 進学指導センター長
新 大承	ECC 国際外語専門学校 専門課程留学生センター 責任者
田中 笑子	ECC 国際外語専門学校 教務課主任
松井 治	ECC 国際外語専門学校 英語課責任者
月嶋 彦晴	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
福本 雄三	ECC 国際外語専門学校 進路指導課責任者
新谷 優貴子	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
書記 山本 昂輝	ECC 国際外語専門学校 進路指導課

#### 4 報告内容

##### (1) 開会挨拶【瀧山】

- ・本日は新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、一部オンラインでの実施。
- ・今年度より株式会社 K 功イ 西出様に委員長をご担当いただき、司会・進行を務めていただく。
- ・また今年度より本学卒業生 1 名を委員に加えて開催する。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021 年度は不安定な学校運営となり、前期授業開始後、分散登校やオンライン授業実施への変更を余儀なくされた。
- ・校内でのクラスターは発生していないが、感染者の報告は受けている状況。
- ・スポーツ大会等の学内イベントや留学等の海外研修はすべて中止となったが、短期留学をオンライン留学に変更して実施した。
- ・ICT 化推進の一環として、全学生へのノートパソコンを無償貸与。
- ・学内組織(1 号館、2 号館、3 号館の役割、GEC、進学センター)概要について説明。
- ・2021 年度設置の 9 学科について説明。今年度より国際留学学科は廃止。
- ・新たに 748 名の新入生を迎え、2021 年度を開講した。
- ・本日は昨年 1 年間の取り組み内容を自己評価報告書に基づき報告させていただく。
- ・委員の皆様より忌憚のない意見をいただきたい。

(2) 2020 年度自己評価報告書に基づいた説明【各関係部署担当者】

別資料「2020 年度自己評価報告書」に基づき報告。以下特記事項のみ記入

■ **基準 3 教育活動**

- ・新たにフィリピンセブ島より 3 名の教員を招いた。(松井)
- ・3 年制の国際プログラムについて、1 年を経たの英語学習成果は、TOEIC 平均 535 点という結果になった。また資格だけでなく、実践的な英語力、発信力が身についた。(松井)
- ・編入や就職だけでなく、その後の進路を意識した教育の充実化を図った。(伊藤)
- ・キャリア教育の一環で、新規科目「キャリア力」を設定し企業連携授業を進めていく。(福本)
- ・授業アンケートを年間 3 回実施。オンライン対応を含めて改善を図った。(田中)
- ・学園全体のグローバル教育の集大成として、GEA を開催。2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、ライブ配信で実施。(松井)
- ・オンライン授業について学修成果向上を目指し、リアルでの授業運営を行った。(松井)
- ・教員の質向上について、採用試験マニュアル/評価項目の見直し、教員研修の改善を図っていく。(田中)
- ・教職員間における学生情報共有の強化を図った。(伊藤)

■ **基準 4 学修成果**

- ・オンライン留学について、参加学生の評価は概ね良かった。2021 年度は学生自身で選べる 7 つの留学プログラムを用意し、留学の幅を広げていく。(松井)
- ・留学生の学修成果について、新型コロナウイルスの影響により、日本語能力試験が中止になる等の影響を受けたが、例年並みの実績を出すことができている。(新)
- ・就職率については、特にプログラム生は進路変更せざるを得ない状況となったが、改めて個人の能力や適性を踏まえ指導を行うことで、内定獲得に繋がった。(福本)
- ・英語力向上において、基礎レベル生への指導が課題となっており、改善の一環として動画で学べる英語学習コンテンツの作成に取り組んでいる。(松井)
- ・卒業生の社会的評価については、企業各位に協力いただき、卒業生の能力評価アンケートを実施。(福本)

◆委員からのご意見/ご質問

**塩谷委員**

- ・キャリア教育について、具体的に取り組まれていることは？  
⇒業界研究セミナーや習得を目的としたイベント等をキャリア実践センターで実施しており、  
今後は専門コースに比べキャリア教育機会の少ない語学系コース生を中心に企業各位との連携を含めた新たな取り組みを行っていく予定。(福本)

**貴治委員**

- ・新型コロナウイルスの影響により、十分な教育活動ができない中、様々な挑戦をされている。
- ・基準3の教育活動に記載されている、トリプルチームについて、毎週末プレゼンテーションを実施されているが、具体的な内容は？  
⇒週ごとに教員よりテーマを伝え、1週間通して英語でレポート内容を作成し、発表を行っていく。発表を通して教員より発音のチェックや文法等について指導していく。(松井)
- ・新型コロナウイルス収束後も、オンラインを活用したネイティブ講師の授業などを実施していくのか？  
⇒今後受講する学生数も増えていくため、今年度招聘した3名のネイティブ教員だけでは足りず、引き続きオンラインも活用して取り組む予定。(松井)
- ・進学指導センターにおける英語指導について、その先の進路においても英語文献が講読できる等、「使える」ものにするのとあるが、具体的な方法は？  
⇒「専門英書講読」という授業を展開しており、大学編入試験対策に加え、各学部の専門に関わる英語文献を授業内で取り扱っている。(伊藤)
- ・教員の担当科目数について、授業範囲拡充のための取り組みとは？  
⇒現在担当している科目以外にも、新たに別の科目を担当できるよう研修や資格等の学習機会を設けている。(田中)

**原委員**

- ・ICTの活用について、例えばオンライン授業中、カメラをOFFにして聞くと授業効率が上がるケースもある。学生が休んでいると思うかもしれないが、意外と受講しており、また学生自身の主体性も身につく。
- ・社会貢献センターを活用するのは大変良い取り組みだと思う。
- ・教員の指導力向上について、評価の高い先生と低い先生が組んでも、あまり効果がない。それよりも低い先生方を集めて、自ら気づけるような環境づくりを目指していくことが重要。
- ・ICT化について、現在の取り組み状況は？  
⇒全学生にノートパソコンを配布している。今後はいかにそれを活用していけるかが課題。  
現在は少しずつではあるが、期末試験や授業のオンライン化等において成果が出ている。  
(大谷内)

## 杉井委員

- ・在籍時よりも良いと思うところが多く、取り組みも充実しているように感じる。
- ・自身の経験から、対面授業であれば講師と密にコミュニケーションを図り、取り組むことができたが、オンラインだとそれが難しい学生もいるように思う。フォローアップがとても重要だと感じる。
- ・キャリアサチの企業連携授業について、語学系だけでなく他コース生も聞ける機会があれば良いと思う。

## ■基準5 学生支援

- ・大学編入コースでは学生が目標を明確にし、学習したい専攻分野を選べる仕組みを作り、授業を展開している。(伊藤)
- ・就職支援体制について、これまで教員主導で行っていたIPライコースの就職指導をキャリアセンターを中心に学校全体で連携しながら取り組む指導に変えた。(福本)
- ・就職希望の学生が大学進学を希望するケースもあり、そのような学生に対して進学指導センターでサポートしていく体制づくりを行った。(伊藤)
- ・留学生指導において、正しい日本語の使い方だけでなく、観光系希望者には美しい日本語、ビジネス系には伝わる日本語を指導している。(新)
- ・中途退学への対応として、学習意欲低下を抑制するために中間評価を実施し、早期発見早期対応に取り組んでいる。(田中)
- ・留学生からの相談で、日本語で十分に伝える事が出来ない学生もいるので、母国語でも対応ができる環境を整備している。(新)
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策について、昼食時の見回りや館内放送等を行い感染予防意識を高めている。(田中)
- ・学生会について、2019年度より発足し、学生主体の活動に力を入れている。20年度は学園祭をオンラインで実施する等、若者らしい柔軟な発想で取り組んでいる。(田中)
- ・保護者連携について、保護者アプリを導入することで情報発信強化を図った。また、年2回保護者会を開催しており、昨年度は電話やオンラインによる面談も実施。(大谷内)
- ・卒業生への支援体制について、現状把握を目的としたWEBを活用したアンケートを実施。今後は再度アンケート項目を見直し、取り組んでいく。また卒業生との繋がり強化を目的にプロジェクトチームを作り、有益な情報発信をしている。(福本)

## ■基準6 教育環境

- ・ICT化についてはハード面の整備に取り組んだ。今後はソフト面を強化するために取り組んでいく。あわせて、学生のITリテラシー強化にも取り組む。(田中)
- ・新型コロナウイルスの影響により、海外研修等が中止となり休学者やコース変更者が相次いだ。今後は代替プログラムや新しいオンライン留学プログラムを実施、提供することで学生の学びを止めないよう取り組んでいく。(新谷)
- ・防災・安全管理について、学生からの声を運営に反映し、設備の改善を行った。(瀧山)

◆委員からのご意見/ご質問

塩谷委員

- ・学生主体の学生会活動は良い取り組みだと思う。卒業後を含めた今後の取り組み内容について具体的に教えてほしい。
- ⇒ゆくゆくは学生会メンバーを中心に、卒業後の繋がりを強化し、現在の卒業生活用プログラム以外にも連携して取り組んでいきたい。(瀧山)

貴治委員

- ・新型コロナウイルス禍の就職について、インターンシップは厳しい状況で別の業種等で就職を決めた学生も多いと思うが、そのような学生に対する卒業後の支援が必要だと思う。
- ・休退学者の主な要因はなにか？
- ⇒多くを占めるのが、新型コロナウイルスの影響により、留学等に行けないことによる学習意欲低下。(大谷内)

中上委員

- ・コロナの影響で学生が苦勞していると聞くと、心苦しい。はやく新型コロナウイルスが収束して留学等に行けると良いと思う。

原委員

- ・休退学学生について、いつ頃に兆候が出ているか把握することが重要。一般的には入学直後から出てくると言われている。先程の報告であった中間評価も大事だが、さらに早期からの対応が大切だと思う。
- ・学生募集において、高等学校との連携も大事だと考える。学生の高校卒業後の情報を高等学校と共有することも必要かと思う。
- ⇒高校関係者としては、そのような情報はとても嬉しい。また卒業後の追跡調査の観点からも学生情報は必要。(貴治委員)

杉井委員

- ・自身も在学中は海外インターンシップコースに在籍していたため、留学がなくなったというお話は心が痛い。
- ・代替プログラムについては、できるだけ学生が留学中にやりたかったことを汲み取っていただいて作ってほしいと思う。
- ・卒業生とのつながりについて、卒業生アプリにおける有益な情報発信の取り組みは良いと思うが、自身の同級生に聞く限り登録している人は少ないように感じる。再周知していただけると良いかと思う。
- ⇒この取り組みについて、2020年度より行っている為それ以前の卒業生への案内が出来ていない状況。今後改善に向けて取り組んでいく。(山本)

#### ■**基準 7 学生の募集と受入れ【月嶋】**

- ・募集活動については、新型コロナウイルスの影響を受け、入学希望者が来校できない、情報がつかめない状況となった。その中で、情報を発信するためにチラシや WEB を活用し取り組んだ。他にも高等学校と関係性強化を図っている。
- ・全体の募集活動については、高校生がどのようなコースを持っているかを把握するように努めており、今後は他校との差別化も図りながら、多様な方法で情報を提供していく。
- ・入学前の学生情報を教務スタッフと共有することで、入学後の学生指導に活かしている。

#### ◆委員からのご意見/ご質問

##### ■**原委員**

- ・入学選考時、新型コロナウイルスの影響を考慮し、受験者に配慮して取り組んでほしい。

#### ■**基準 8 財務**

- ・特記事項なし

#### ■**基準 9 法令等の遵守**

- ・特記事項なし

#### ■**基準 10 社会貢献・地域貢献**

- ・留学生募集について 入学者の大半が現在も日本に留学できていない状況。(新)
- ・海外の留学エージェントが倒産などにより減少するなど、海外との繋がりが減っている。チラシを活用し、留学生募集に取り組んでいく。(新)
- ・大阪府より受託しているグローバル体験について、新型コロナウイルスの影響を受け、2020年度は体験者1221名となった。2021年度に関してはプログラム参加希望者も多く、2000名以上予約をいただいている。ただしキャンセルの連絡をいただくこともあり、緊急事態宣言が長引けば影響も大きくなっていくと予想される。(松井)
- ・ボランティア活動については、新型コロナウイルスの影響を受けているが、数少ない機会を有効に活用し取り組んでいく。(大谷内)

#### ■**基準 1 教育理念・目的・育成人材像【瀧山】**

- ・新型コロナウイルスの影響を受け、入学者が減少している。引き続き特色ある学校づくりを行いながら、情報発信強化を図る。
- ・Eライコース・総合英語コースに続き、今年度より3年制のホリコースの募集を開始している。今後は人材育成の観点からも3年制コースの比率を高めていきたい。
- ・特色ある教育活動として、英語力向上とICT教育推進を柱に授業提供や教育の仕組みを作っていく。その為にも企業各位との連携を強化し、外部の意見を学校運営に取り入れていく。

## ■基準2 学校運営【瀧山】

- ・ICT教育の推進にあたり2020年度はハード面の充実化を図ってきたが、今後はソフト面の強化が必要だと考えている。今年度よりIT担当職員を配置し、学生や教職員のITスキル、情報セキュリティの意識向上に取り組んでいる。
- ・入学者募集については、新型コロナウイルスの影響を考慮し、オンラインでも出願できるようにしている。

### (3)組織内のPDCA手法について【各委員】

#### 塩谷委員

- ・弊社では3月式の5W1Hの手法を活用することで、やみくもに取り組むのではなく、スタッフ一人ひとりがしっかりと考え、取り組むことができる流れを作った。
- ・計画に対して早急に取り組むだけでなく、今起こっていることを深く追求しながら進めていくことも重要だと考える。

#### 原委員

- ・大学ではIRでPDCAを回すのが大原則となっている。学校内にあるデータを様々な形でつなぐことで見えてくるものがある。例えば、学生の入学から卒業のデータをつなぐことで、学校の長所や短所が分かることもある。

### (4)委員長からの総括【西出委員長】

- ・ICT推進にあたりハード面は充実しているが、今後はICT活用力の向上が課題だと考える。ソフト面を構築していく中では、情報セキュリティの管理体制や、機械の「バーションアップ」等の対応も付随してくるので、並行してガイドライン作りを進めてほしい。

### (5)閉会の挨拶【瀧山】

- ・本日は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいた意見は今後の学校運営に活かしていくとともに、課題については第2回学校関係者評価委員会にて改善の報告させていただく。
- ・留学の実施等について、100か0で判断するのではなく、柔軟に物事を考え進めることで、少しでも多くの学生を支援していけるよう取り組んでいきたい。
- ・次回は2022年2月19日(土)14時より実施予定。

以上